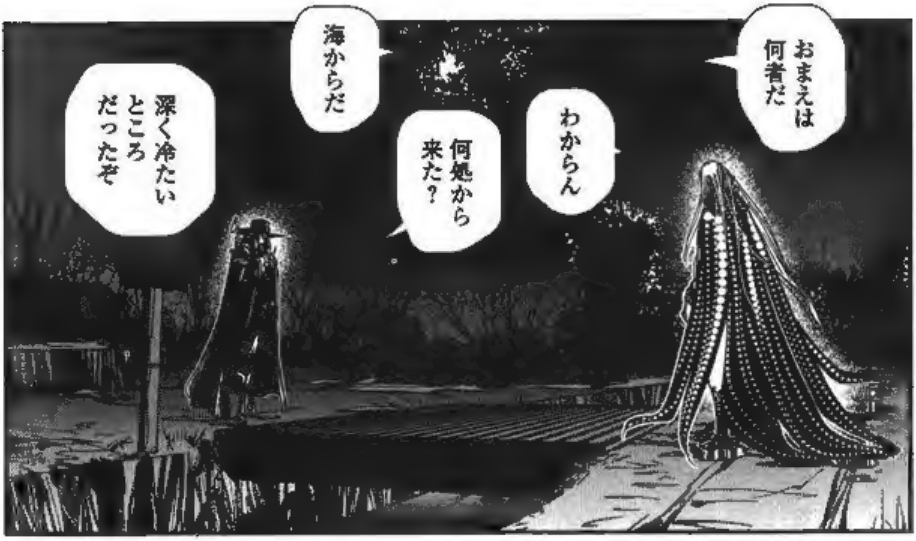
バンパイアハンターD
Vampire Hunter D
8
北海魔行 下巻
原作
菊地秀行
Hideyuki Kikuchi
作画
鷹木骰子
Saiko Takaki
菊地秀行 著『吸血鬼ハンター8　北海魔行〔下〕』より

辺境の海辺の村
フローレンス
悲惨な死を遂げた村娘・ウーリンの願いに応え
吸血鬼ハンター〝D〟は
謎の「珠」を携え　少女の故郷である
冬の村にやって来た
珠を狙う5人の戦闘士達と奇怪な老人
Dに勝負を挑む美貌の剣士
――そして
夏になると海から現れるという貴族
北の凍てついた村に
一週間の夏が訪れようとしている――

ようやく
わかったぞ…
…私が求める
もの……
キィ…

来るかもしれんと思ったが
誰だ？
やはりな
男……
あいつと同じ殺気……
私の城で……
あいつ……？
何処にいる？
誰がだ？
わからん


おまえは何者だ
わからん
何処から来た？
海からだ
深く冷たいところだったぞ

ふさわしい場所だ
戻れ

私はここに用がある
やっと見つけね当てたのだ
住人は——女は何処にいる？

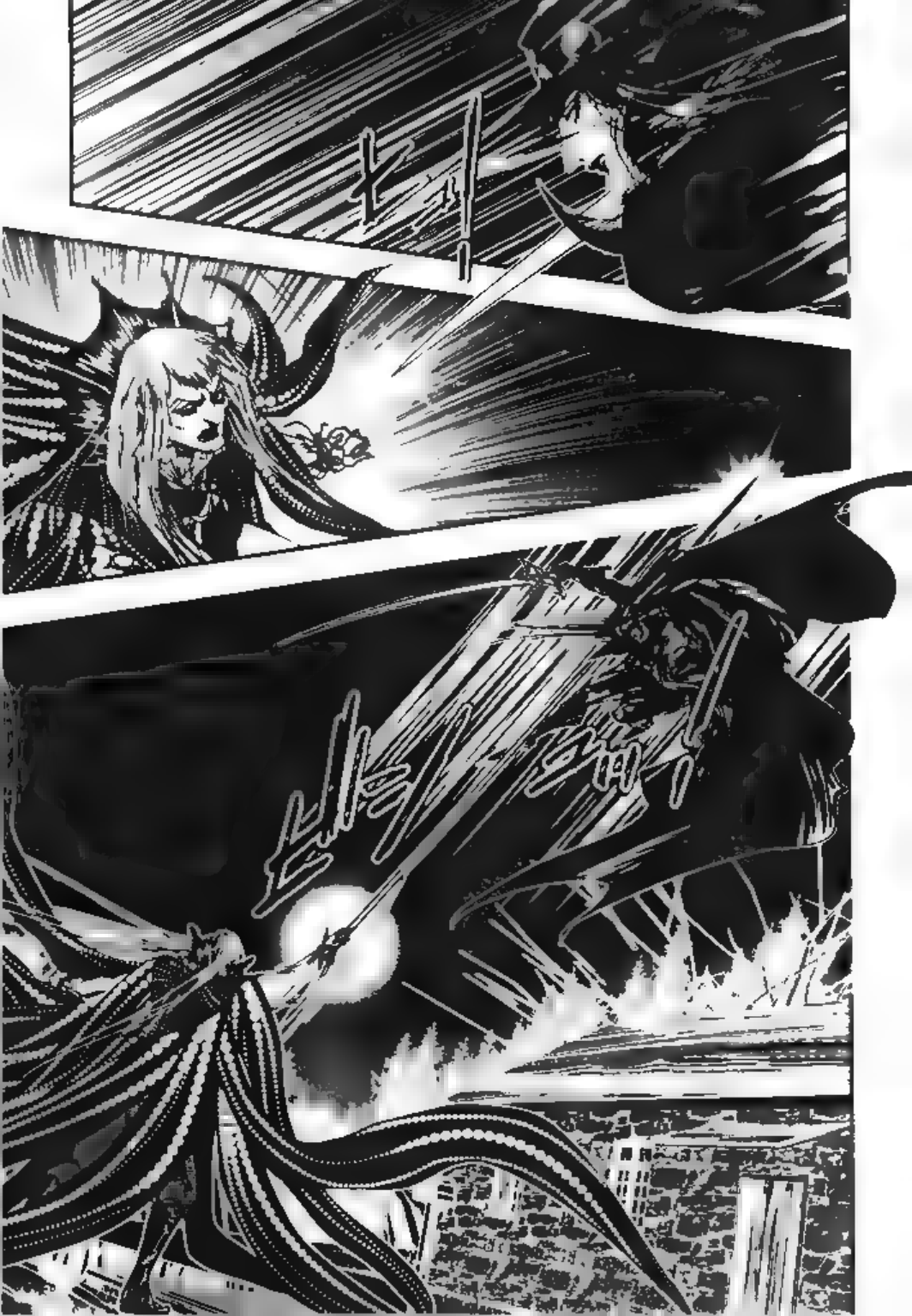
…貴様…
——何者だ？
村の博物館で肖像画を見た

確かめさせて
もらおう
——おれが
わからんか
マインスター？

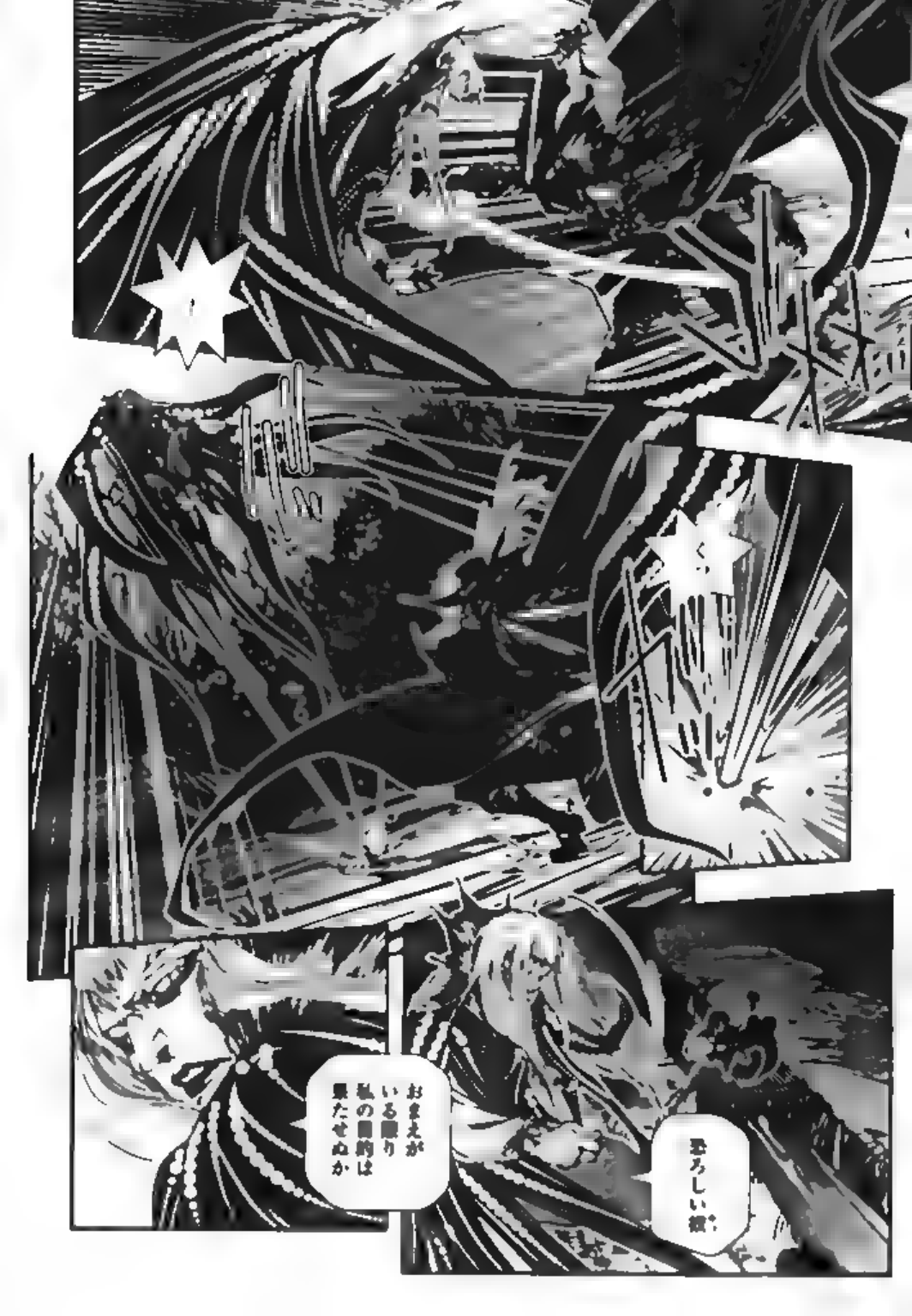
マインスター城の
城主は
おまえの顔を
持ってはおらん
だが
館長から
別の話もきいた

…いいや
覚えて
いるとも

忘れて
なかろうか
我が身を
あの奈落へと
突き落とし
我が奥津城を破壊し
あろうことか
偉大なる実験の成果を
奪い取ったもの…
あれは
おまえか!?
言わず
とも
――死ねば
同じ



……
教えてくれ
なぜ私はこんな武器を使える？
私は——何者だ？
……


ぐっ
おまえが
いる限り
私の目的は
果たせぬか
悲ろしい被

――また会おうぜ
誰か来るぞ？
誰だ貴様は!?
スーインの家の方だな
――貴族!?

うわっ
大丈夫か!?
止血帯を早く!
血が…
もう
出血は!?
いない…
—海へ逃げたんだ
鯨だっ!

あんた…
スーインとこの
人だよな？
今のは……
あいつ
――貴族だな？
おお！
この風は――
貴族を!!
あんたが
追い返した
のか？
覚えとけこりゃ
――大した
もんだ！
夏だ！
夏が
来たぞ！

周りの村人ども全部
こりゃ人形どもだぞい
臭くその悪い
今度は重力か

つづけ
——奴も生き物だ
いずれは衰れる！
統治師に国王
あやつらひとりではおぬしに敵わんと思って
結束して来おったぞい
下がれ！
遠くから仕留めるのだ
…なんという奴だ
十倍の重力の下で…

おお!?
北斗のシン

勝負したぞ
さすが吸血鬼ハンター"D"
キングのお出ましか？
おれは最初から善悪を論むのは反対だった
おぬしとやり合って手傷を負って最後共闘やむなしと踏んだが
やはり気は変らなかった
来んのか
次は一対一で勝負だ
キング・エグベルトとしてな
また会おう

動くな！
かかったな
僕儂は生を与えるのみにあらず
――それは死体のからくりよ
エグベルトの奴めわしがやられたと判断して去ったがつまらぬ情けを敵にかける奴
そのせいでくく…珠の謎を知り損ねたわ
知っているのかそれを？

教授とかいう
老いぼれから
聞いたわい
くく…
わしはお前のように
中途半端な
あいの子ではない
真の貴族に
なってみせるぞ
――球は
どこに
ある!?
…
そこだ
口をきく
手が
持っている
？
そうか
成程
これほど安全な
隠し場所も
あるまい
では
いただいて
いこう
お前にはもう
用はない
血の匂い
フオオオ……

まさか
ガッ

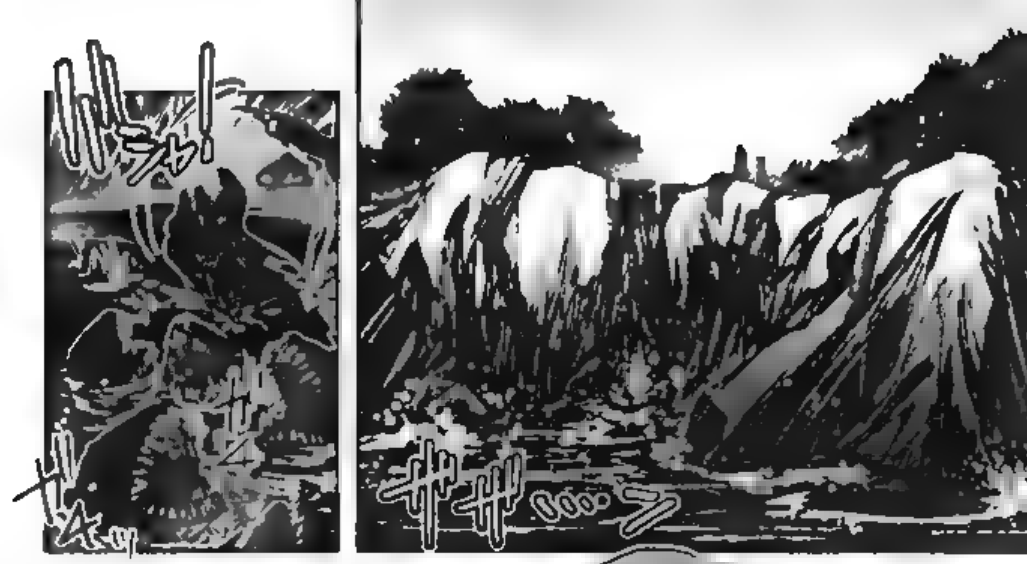
恐ろしい奴…
まさか自分の血の匂いで…
クロロック教授
手に入れたか？
この通りだ
見ろ
さて答えろ
うぬは生きているかもう死んでおるのか？
……
これが奴の左手よ
珠はこの中にある

ブオッ
ブオッ
ブオッ
ズズ
ズズ
ズズ
そう
驚くな
生きて
おる
ぐるん!
おぬしの意中に
魂が納めて
あるはず
そうだな
そういえば…
そのようなものを
飲まされたような…
どれだかわからんが
いま 見つくろって
出してやろう
オーと
もにょ
ごくん
ごくん
ごくん

ドッ
おのれ…
ケケケ

ヤツ
小ぶりを揃えてても何にもならんぞ
ポン
ポン
弾はオレ
おのれー
とんだ誤算だったな

ぐ――
畜生
愚か者…
おまえの
首には…
…わしの
寿命が…
こいつの
ことか？
こんなもの
紙を2枚合わせて
描けば
容易いことよ
残念
じゃったな
うう


ハッ!
ハア
ハア……

思い出サセル
……

これでやめるか?

それがよい
魔は魔貴族ハンター・D
――回避！
触れもなき剣の名手だ
一介の修行者の剣速ではない
確かに斬てぬ
つまらぬ意地など捨てて早々にこの村を去れ
斬てぬな
魔をはう者がいかに修行を積んだとて伝説には及ばん
しかし――ひとつある
あるや
このおれが魔貴族ハンター・Dを地下に眠らせる法が

おれは一度だけ神を信じる
ああおれが敗れ絶望の淵に立ったときこのような救い主が現れるとは――
おれは貴族になる
まさか
まさか…おまえは…
今宵からおれは外へ出る
奴を求めてな
おまえは奴の現れやすい場所を探れ
二人で探すのだ
そんな――
そのような真似を――私がするとお思いか？

嬢か？
嬢なら
たったいま
この館から
投げおとして
くれる
傷の手当てと
ともに寝る
くらいしか
能のない女
かぁっ
おまえの喉へ
貴族の牙が
食い込む
その日まで
喜んで
従おう
ふふ
死に損ないの
厄介者

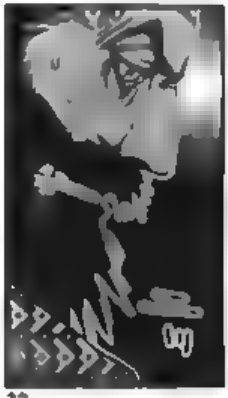
おれの名は
エグベルト
――サモンから
きいているな？
国王エグベルト

――何の
用だ？

たった
いまから
おれは
侵略者を討つ

お前が立つ
その場所は
おれの王国の中だ

キング・エグベルトの名の下に！
つまらぬ女の為に逆って生命を捨てるとはおろかな騎士もあったものだ



！
重い！

ドドド

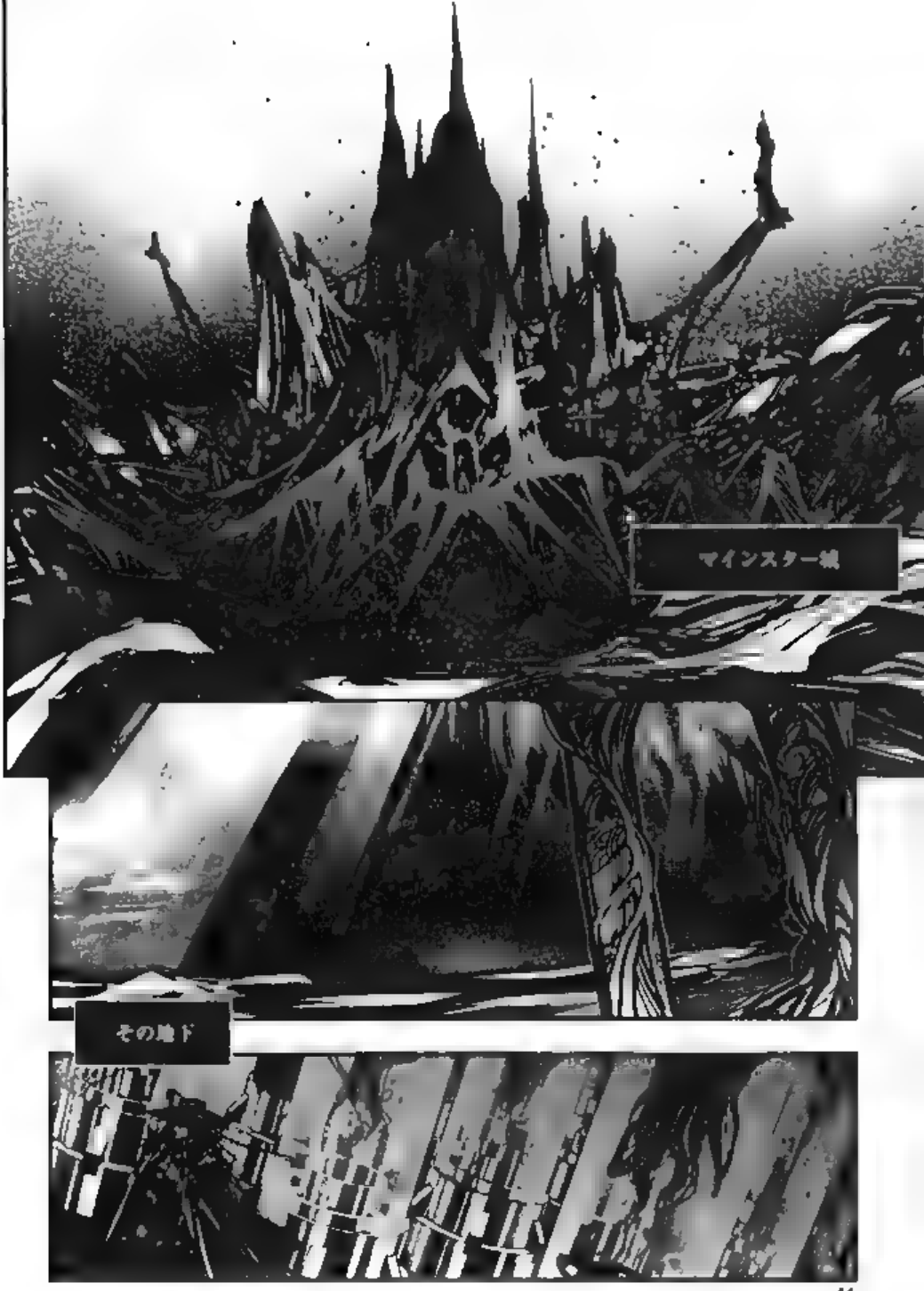
あああ
人食い鬼の
餌になるがいい

D？
…いないわよね？
…忘れ物を取りにくるくらいいいわよね
コト
スーイン？戻ったのか？
ええ
忘れ物を取りに
教科書とか…
…お…
この

スーイン
！
これは…
あの時の…

ドン
ドン
ドン

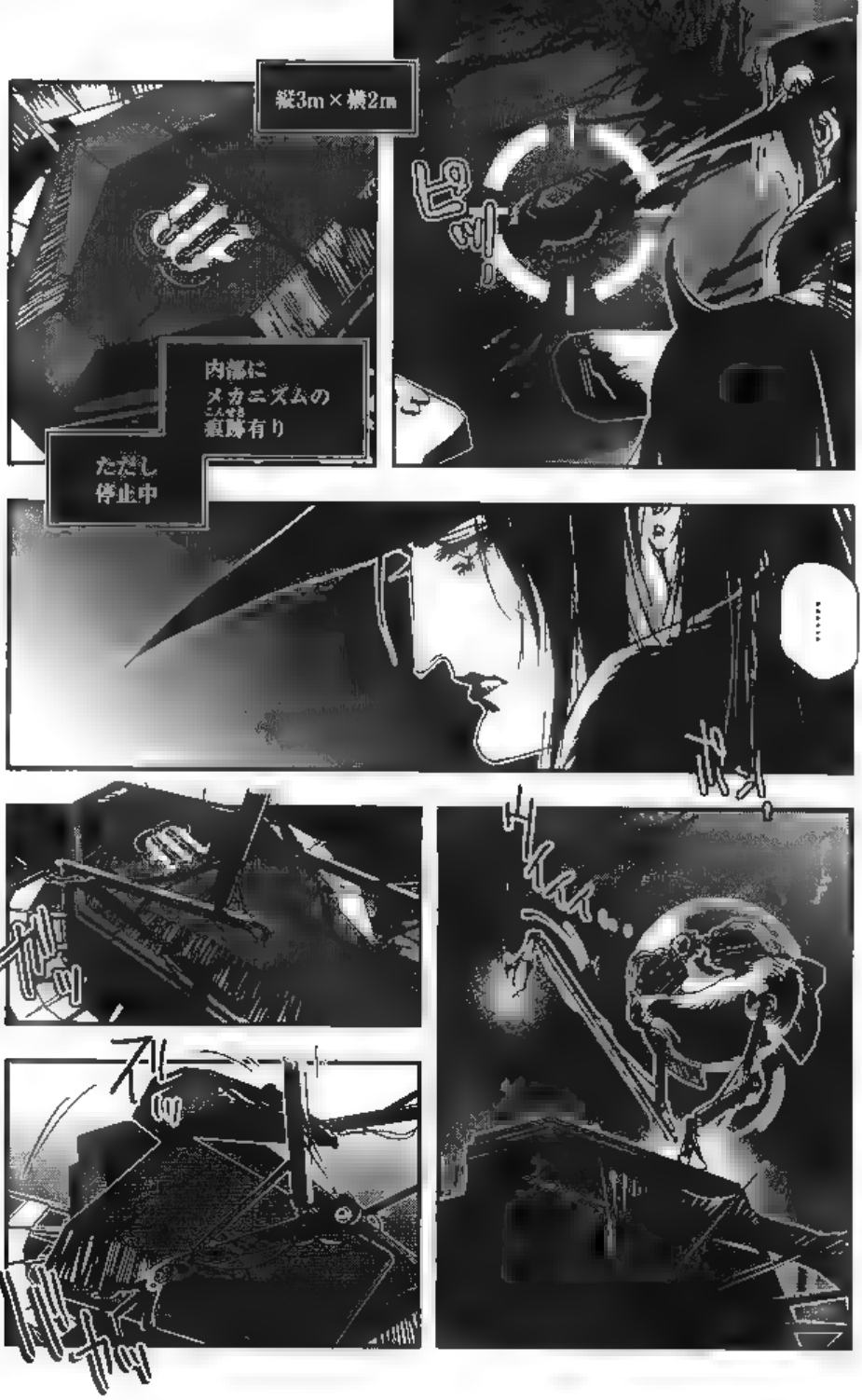
殺人に
なんて
慣れたくなかった
ううっ
ぐ
俺は
いったい
なに
くえっ
ゴッ
ゴッ
ゴッ


マインスター城
その地下

動力炉
力場起動
スクリーン・オン
精神感応
増幅器搭載
潜行開始
深度20m
時速16ノット

深度400m
前方に
すり鉢状の
地形
直径10km
降下します

全長2kmの
亀裂
最大幅12m
深さ3000m
ピピピ
限界深度
ギリギリです
ズズズ
底に人工物の反応
3Dスキャン
降下します
深度2500m
ピピピピ


縦3m×横2m
内部に
メカニズムの
痕跡(こんせき)有り
ただし
停止中
ピッ
……

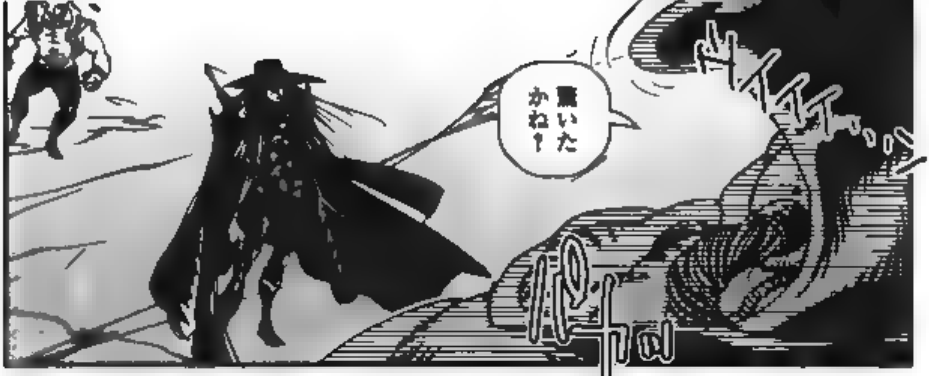
……
高速で接近する
物体を確認
回避出来ません

モニタリング
システムに異常
危険
ピピピピ
緊急浮上します

スーイン…
はあ

おわあ!!
ななな
なんだあ?
おめえは
—D!!

今度はなんだ？
氷の上へ
おおう
どうするんだい？
この辺は何メートルある？
氷の厚さのことか？
ざっと8メートルだ
離れていろ

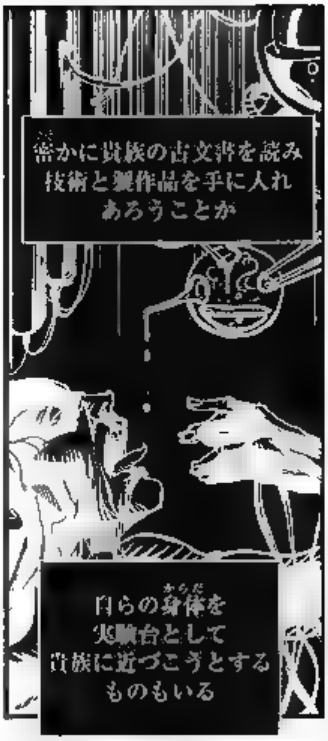

裏いたかね！

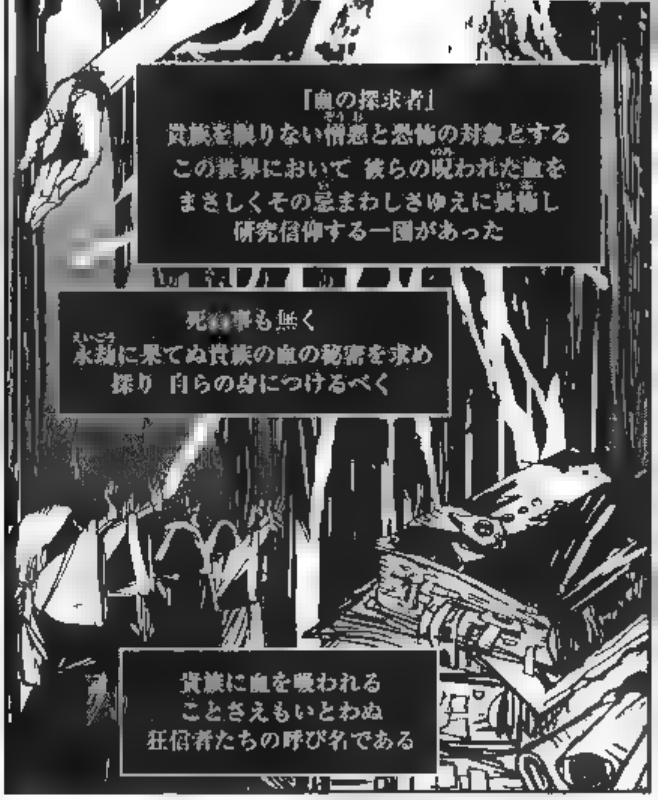
おめえに首を斬られてもおれは生きてたぜ
痛かったよ
あのときは死にてえくらいに痛かった

だけどな頑張ったのよ
こいつに乗り込むまでは
この日のためにおれは修業してきたんだ
いくら首を斬られたからといっても死ぬわけにゃあいかなかった

「血の探求者」だな

ほうやっぱり知ってたか


密かに貴族の古文書を読み
技術と製作品を手に入れ
あろうことか
自らの身体を
実験台として
貴族に近づこうとする
ものもいる


『血の探求者』
貴族を限りない憎悪と恐怖の対象とする
この世界において 彼らの呪われた血を
まさしくその忌まわしさゆえに畏怖し
研究信仰する一団があった
死も事も無く
永劫に果てぬ貴族の血の秘密を求め
探り 自らの身につけるべく
貴族に血を吸われる
ことさえもいとわぬ
狂信者たちの呼び名である

吸血鬼ハンター"D"
――ただのハンターでもダンピールでもねえよな
キギ…
どうだいおめえとおれとどっちが貴族に近いか試してみねえか？

今度は油断しないさ
おまえにやられたところは修理したし装甲ペイントもエンジン出力回路も強化した

――ところでよ珠は何処にある？
教えてくれればいや渡してくれれば楽に死なせてやるぜ

おい
――その珠ってのは一体何なんだ？
まさかスーインと何か関係が!?
キリキリ
――Dよ知りたくはないか？
無駄だよ無駄
このあいだみたいに自分の血を舐めて貴族の本性を出してみたまえ

本格的に
拷問させて
やろう
さあ
珠は何処に
ある？
ヒュン
ヒュン
おりよ？
ニヤ
ドスッ
ドスッ

消えた…
どこへ隠れ…？
！
そこか
そのトに隠れたな？

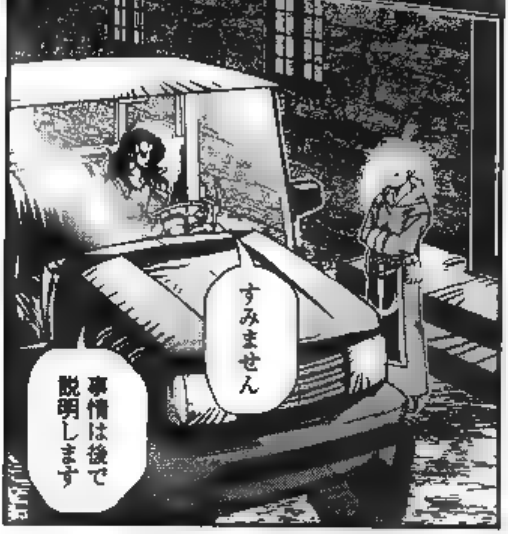
!?
ドカ
ドカ
人丈夫だ
割れっこ無い
ちゃんと修理した…

…だが
そこは…!?
……!!
バキッ!
吹
前と全く
同じ場所を!!
なんて
奴だ!?

ヒュゴゴゴ
ドドドドド
ズズズズズ
一体――
何なんだよ
こいつ

逃げた…？
氷の下
いや
海底へか？
ゴゴゴゴ…
…今気がついたんだが
手首から先はどうしたい？

雷晩さん？
！
そいつは……
心当たりはあるかね
その扉…たぶん祖父に化けてた殺し屋だわ
褒められておる
あんたがやったのではあるまいな
――すると…
雷晩さんでもないのね？
すると助けてくれたのは誰かしら？
わからんな
わしは今来たばかりじゃ
この死体治安官に届けなくちゃ
ああでももう日暮れ!?
私今村にいるのはまずいのよね

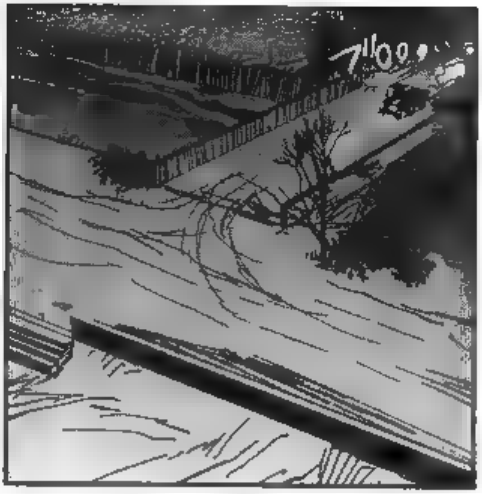

すみません
事情は後で説明します

助かるわ
事情はよくわからんが逃げ出ならわしがしといてやろう

そこまでですよ

ついでじゃ
わしも乗せて行ってくれ
じゃあそこまででいいから

右よ
左じゃ



降りてちょうだい
へいへい
それじゃ気をつけて
ブロロ…
キュッ!!
ちゃっかり!
よし左だ
右右っと…
キュキュッ!
ブロロロロ…
ふふ…気づいてないな

このトト様にかかれば
チョロイもんだぜ
まずは歌の巻き起こりを聞き出して…
！
―D!?
―いや貴族か!?
トンネルの…

なんとか
食いとめないと
来すのは
無理だ
ゴゴゴ
1,000

うわっ!?

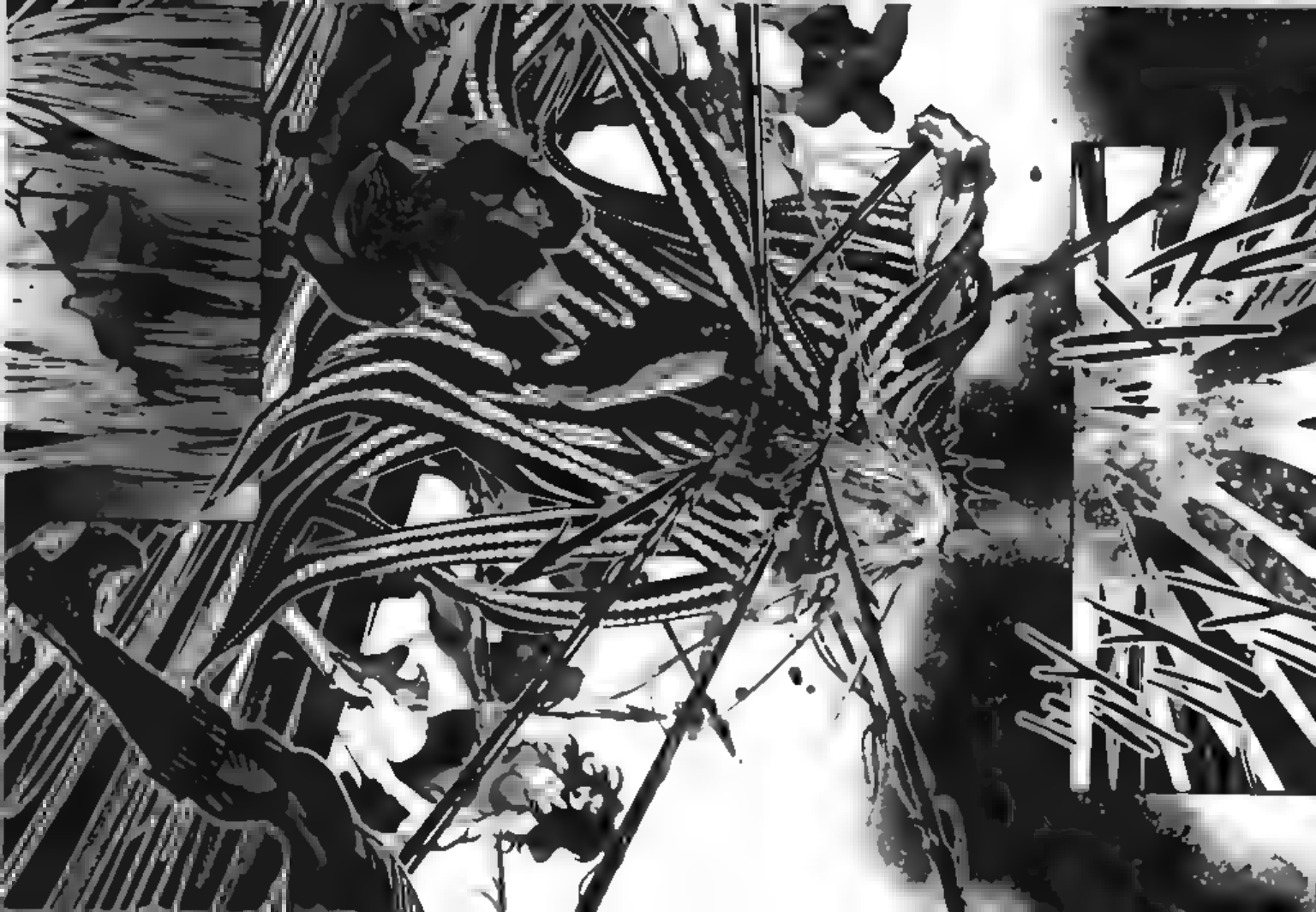
ズオオオオ…
貴族!?
大丈夫かスーイン!?
大変だ
貴族が出おったぞ!
…う…ん?
何処に?
ズイッ
——とにかく出なくちゃあ
雲暁さんはそこに隠れててください
ガッ!

マインスター…
男前ね？
マイン…
スタ……？

マイン
スター
帰って来た
だがなぜ
おまえのような
下級なものの
前にある。
なぁ
帰かった
ね
帰がひっくり
返ってるや
帰だ
そこにいる
のは。
大丈夫か。

大丈夫よ
こらスーインの車だ
スーイン？無事か!?
!?
――貴族だ！あいつだぞ!!

ス…
こ殺せぇ！



五千年以上
生きた魔物を
よく殺しか
ア
私が
滅ぼしは
ふ
ま
お
ま
え
の
下
僕
の
者
た
ち
の
中
で
は
そ
れ
は
本
物
に
で
き
ん
だ
ろ
う

女――
初めて見るが――
――何処ぞやで会ったような妙な気分にさせる女
記憶があるか？
ない
化け物の知り合いなどいない
そうか
ならば情けをかける必要もあるまい
ここで…

ううっ…
おれは…
…なぜ
ここに？……
……？
スー…
…イン？
…あなたは
――!?

この刃が
最後の一撃！
元気の
いい女だ
上等だ
上等だ
血でも
喰だけは
よかろう
どれ
を出せ

いまだ
逃げるぞスーイン！
真晩さん
バッグが…
何だよこんな時に
ここにある！
!?
真晩さん？
！

あなた
誰？
しまった
ちっ
くそっ
えい
面倒だ
！

おのれ
小癪な
真似を
誰か
いるぜ？
止めろ
え？
まだ岸までは
だいぶ…

また
会ったな

やはり
マインスターか
――おまえの
棺をみた

私の
――棺を？

わからん
のか？

どちらにせよ
おまえに
帰る場所はない
闇の
彼方へ
戻れ

それが
我々の宿命
だが
くつがえそうと
試みた者も
おるぞ
―私のように
水は
苦手か
やはり
ダンピールか
よく来た

では 相手をしてくれる
バロン・マインスターの実力をたっぷり味わってから死ぬがよい
ドン

心臓を狙ったが…
避けたか
――さすがだな
だが今度は――

だだ
大丈夫か？
上がれ
消えた
…のか！
野郎
逃げやがった
な？

こいつぁ…
…あの貴族にやられたのか!?
スーインと蜜晩もいたはずだが
何だって!?
……いねえぜ
無事に逃げおおせたか？

ウウウ
ウウウ
ウウウ

グレン…

グレンは
もう
長くはない
岸から落とされ
人食い魚に
喰われ……
生きて
いるのが
奇跡
しかしそれも

これでよい
私が死ねばあの男も死ぬ
それも天命…
ほほ…
地獄で一緒に暮らすのも面白いぞ

ここは…
見覚えがあるわ
たしか…

「貴族の館」のそばの廃寺院
起きたかい？

悪いが一服盛らせてもらったぜ
身体が…

副作用は無いが明日の夜まで動けねえよ
首から上くらいは動かせるだろ？
あなたが蛮暁さん？

そういうこった
本名はトトという
よろしくな
こう見えても紳士でな
おかしな真似しなきゃちゃんと家へ帰す
紳士？
聞いてあきれるわ
紳士は女性の腹にいきなり一発くれたりなんてしないわ
この商売すべて話し合いってわけにゃいかねえよ
多少荒っぽいのは勘弁してくれ
私をどうする気？
――安心しな用はおめえじゃねえ
どうにも
あの珠ね？

何処にある？
知っていても教えるもんですか
だろうと思った
なら奴から聞き出す手だな
奴ってDのこと？
おめえはその為の人質さ
他にいるかい？
夜が明けたらすぐ交換条件を書いて届けてくる
ごめんなさいD……
あなたが言った通りだわ…
ん？
私のバッグ…
ねえあのバッグはもう調べたの？
おお当たり前だろ？

なんで
ちゃんと戻して
あるんだろう?
おかしな人

坊さんに化けて
家に出入り
してる間に
私をさらって
逃げようとは
思わなかったの?
冗談
じゃねえ
あの用心棒
——たやすく
手の出せる
玉かよ
おれは本気で
おめえたちと
仲良くしてたんだ

そのままで
いたら
どうだい?
ん?

ずっと友達で
いるのよ
友達が
面映いんなら
仲間でいいわ
インチキな
紹介状かなんか
つくって
——村役場に
就職するんだ

何いって
るんだ
よしてくれ

いつまでも
そんな商売してて
年を取ったら
どうするつもり？
十分貯め込んで
いるのかしら？
……

今まで
そんなこと
言われた事
ないのね？
もう
寝ろ
逃げないでよ
ちょっと

余計な
お世話だ
馬鹿野郎

…あの
珠のこと
何か知って
いるの？

何も
知らないで
狙ってるの？
……勘だ

……

……妹と会ったのね？
……

ちゃっ！

どうしたの？
ネズミだ
ねえ
妹と会った時の事聞かせて

大丈夫よ
あなたが殺した奴の手先だなんて思わない
村を出るとき一度と会えないなんて思えなかったから
ナスラ
……
……いいだろう
4ュン!
4ュン!

Vampire Hunter D

ヴァンパイアハンターD

菊地秀行

鷹木骰子

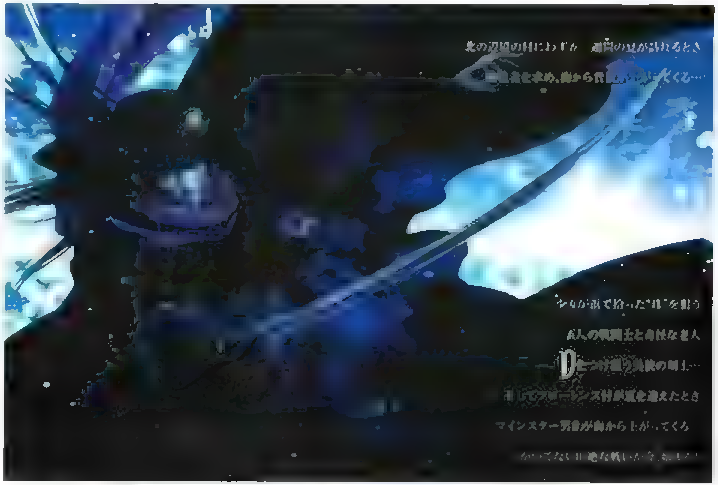
8

9784040668536
ISBN978-4-04-066853-6
C9979 ¥667E

1929979006679

定価：本体667円（税別）
雑誌52662-53

発行：株式会社KADOKAWA
KADOKAWA
\1メディアファクトリー



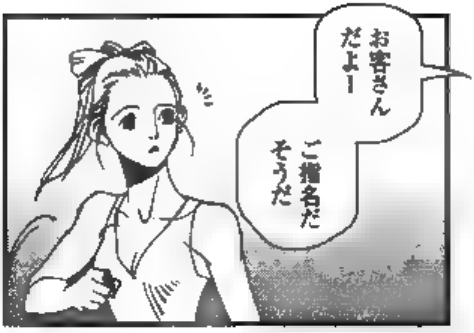
見掛けに寄らず
頭脳人たらか
何人が何人か
行方不明に
なったらしい
何かしら？

やっぱり出るのか貴族が？
夕べの海岸での騒ぎ…
自警団が10人も殺されたってよ
おい大丈夫なのかよ…

夏の間はなんとか稼がなきゃ…

あれは…？
まさか…!?
ザザッ

…奴はたしか…


お客さんだよー
ご指名だそうだ

はーい

……
……

OK
わかったわ
キャ
アア…
……
スーイン…

女は
あずかった
返して欲しければ
珠を持ち
正午に 村の西端
「黒い淵」へ来い
すべてはおまえ次第だ
暁鬼…
役立たずめが

……っ
ネズミ？
生き返ったの？

気のせいかしら
人の手に見えるんだけど…？

ワキッ

おおい
!!

ひょっとして——あんた？
手首がしゃべってるの？
手首が喋っては悪いか？
この声聞き覚えが…

こらスーイン
きこえるか？

そんなことはないけど——
あんたはDの左手かい？
そのうち肩替えしようと思っとる

やっぱり
——どうしてこんなところにいるの？
気楽に言うな
おまえが気になってついてきたに決まっとろうが
他人の村り事みもわからん小娘のくせに

ついて来たって——いつから？
おまえが縁いに化けていた殺し屋にその鼻を飛がれかかったとき助けてやったのはわしだ

じゃあいつを殺したのはあんた？

殺したんではない
おまえを助けたんじゃこら
スパーン!!

わかったわ
それで——なにやってんの？

ゆうべ
あのこそ泥に
ネズミに関連われて
申(しん)刺しにされて
動けんのだ
何とか
手伝え
せめて
ひと口の
水でもあれば
こんな事
ぬ
ぬぬ
一発で溶かすか
凍らせて
しまうのに…
駄目
薬を打たれて
動けないの
ええい
この役立たず
くそ
どうにか
ならんか?
そう
いわれても…
:
……

黒い湖
よく来たな
スーインは何処にいる？
……

その前に珠はあるか？
珠はおまえたちの仲間が持っている
シンと言ったか
シンは死んだ
シンを殺したのは奴らしい
クロロック教授という奴を知っているか？
…すると珠は奴が？
…
女はここだ
とにかく珠はない
スーインは何処にいる？
この通りスーインは頂かった
しかし珠がなければ連すわけにはいかないなあ

君はともあれ
ここまで来い
もとは湖でも
見ての通り
今は一滴の水もない
涸れた土地よ
ダンビールと言えど
容赦することはない
いまだ
やれ
エグベルト！
ボコッ
ボコッ

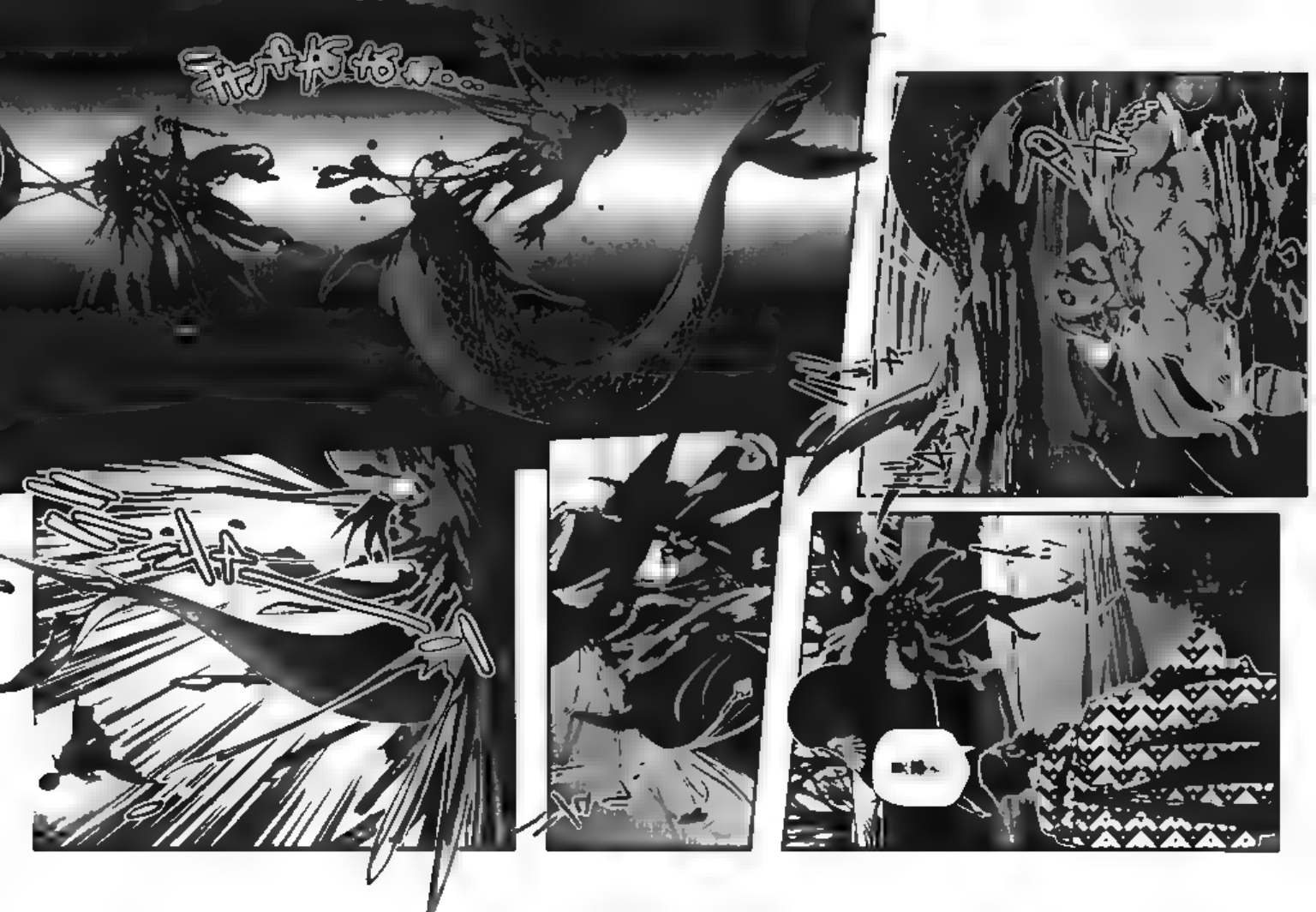
ここは思い出の場所だった場所だ
木の上に土がかぶさっているに過ぎんのだよ
どうだダンビール！
木の中はやはり空洞か？

水を飲め
その腕
いっぱいにな
しきに
乗してやる
だが
空気は
吸えんぞ
ゴボ
ゴボ
3分半か
ダンピールの
水槽だな

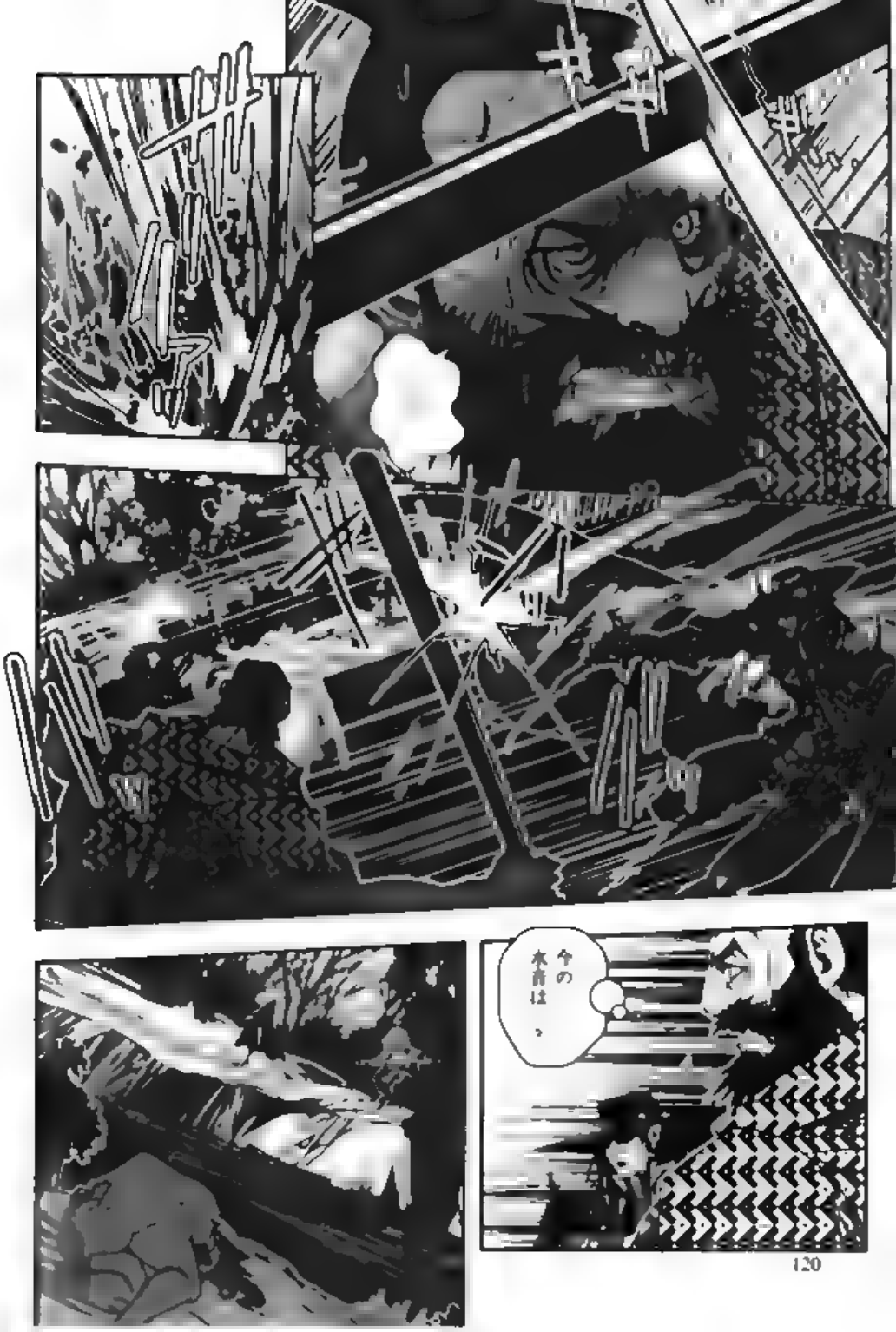
なんと美しい男
貴族の血を引くものに滅死はない
止めはこれでさしてくれる
!?
貴様――!?

ザバァ
ザバァ
ザバァ

ハッ
もしや
あなたは
あのお方の
――？
その能力――
――その
お顔――


ナナなな…

ひとつ
教えておくが
あそこにいる娘
——偽者だ
もっとも
娘の方を
気にするとは
すでに気づいて
いたか？
思った通り
——おぬし
ただのダンピール
ではないな
何者だ？
スーインは
何処だ？
知らんよ
だから
偽者を
使ったのさ
！


今の
衣音は
？

やったぜ！
たたたた…

気づかれたか？
まあいい
へへ 珠は手に入れたぜ
まずはこの村からおさらばだ
「都」へ行って…
馬を下りて珠を出せ
……

前へ投げろ

死ね
心臓を突いて
違う左だ
！
いかん

昨夜からDを
見張っていた
甲斐があったわい

これで
賭を貴族にするも
しないも
わしの意のままじゃ
この珠の持つ
真の意味に気づかぬ
愚かものどもは
勝手に殺し合うがよい
わしは最後の
仕上げに
かかるぞ

へへ…
情けねえ…
…珠は取られちまったよ

クロロック…教授だ
野郎…わざわざ…てめえで急所外し…やがった

誰にやられた？

…あの教授…
…おかしな…紙に何かささやいて…おれを自由に操りやがった…
気をつけろ…

おれの心臓は…
……へへ…右側にあるんだよ…

珠は
あいつが…

じき
日が暮れる
わしの願いを
叶えるのに
ふさわしい
時間じゃ

いる？

誰かいる

いるわ

あー…つかぬことをきくが…

何よ？
ええ 少し
でもまだ 身体を 動かすのは 無理ね
少しは感覚が 戻ってきたか？
ふむ
なにが ふむよ？
実は わしは 腹が減っておる
おまえら流に 言えば だ つまり 栄養をとらねば ならんのじゃよ
どんな 栄養？
うーむ
ねえ 勿体ぶらずに 言ってよ
どうすれば いいの？

いつ
食事をした？
昨日の
お昼前よ
水も
飲んだか？
もちろん
……
あっ！
うむ
なにが
えらそうに
うむよ
いやらしい
時間が
ないぞ
――奴らが
来おった
！
奴らって!?

！
…あなたたち…
ハンナ
クレム
リカルド!?
どうして？
いつ…いつ咬まれたのよ？
誰に？
二人？
昨夜よ…
あたしたち…三人で夜光草を摘んでいたの
そこへあの二人が来たわ…

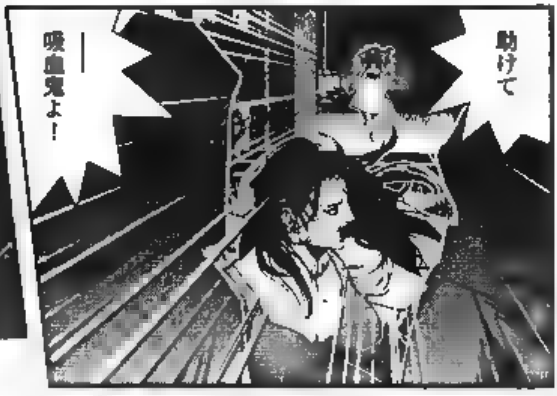
ああ
いい匂いだよ
スーイン
さぞかし
新鮮な血が
流れているに
違いない
！
？
怖くて
失禁したか？
無理も
無い
仲間になっても
可愛がってやるぜ
誰が
あんた
なんかに！

動いた！
この野郎
ぐっ…
ぐっ…
おまえたちの
刑事は試験
このわしじゃ
!?

おのれ
許さぬ
ケのて
終わりじゃ
出るぞ
スーイン
もうひとり
いるわ
役に
立たないんだね
もう！

！

といて
——吸わせて
その娘の血を


助けて
——
吸血鬼よ！

ズル
ズル
!
あなた…
…あなた
たち〜…

馬鹿な
娘たち
あたしたちが
来るまで
我慢していれば
よかったのに…
彼の二人は
あなたに
殺られて？
彼らに
別の世界を
与えたのは
私たちよ

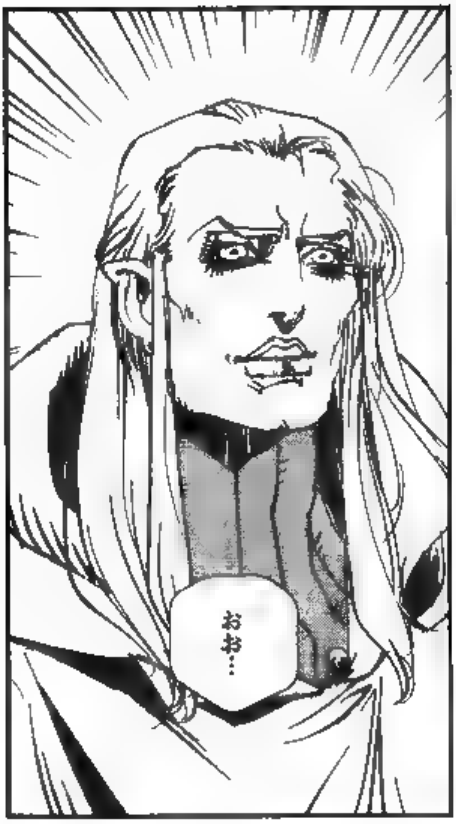
おまえは
たしか――
娘
おまえは一度
私の術に
かかった
あのとき
おまえは
ある男を
私に示した

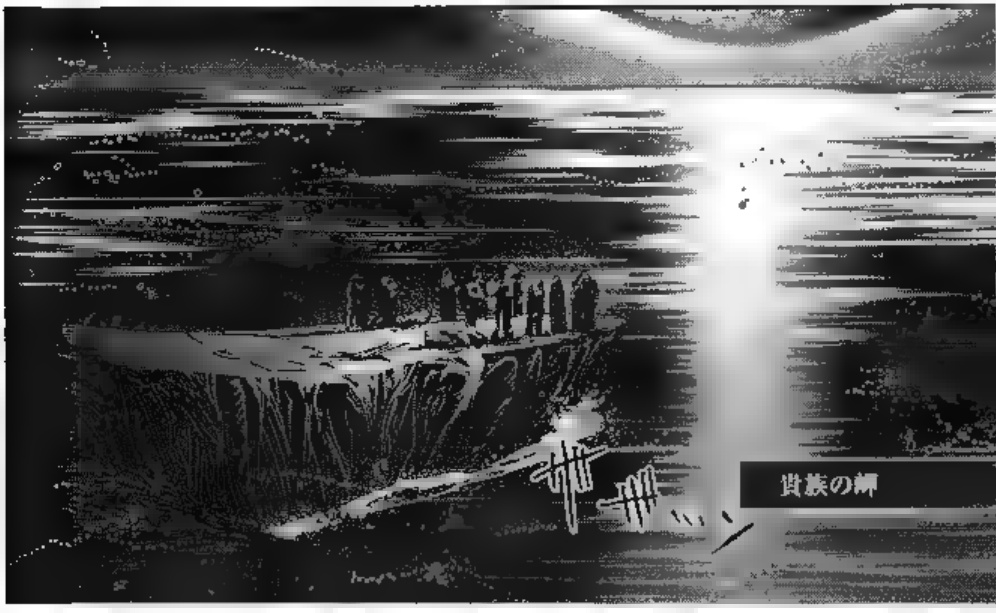
男？
そうだ
男だ
この世で最も
忘れがたく
ひとめ会いたい
男をな

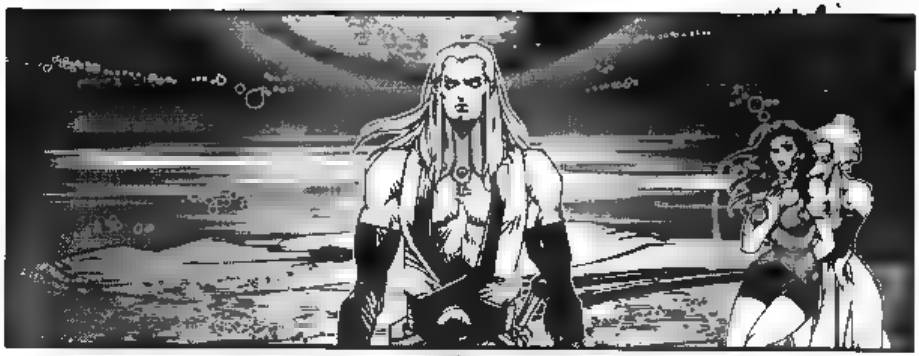
あの方とどういう関係だ？
海から来た貴族と？
!?
何の事？
ウーリンよ
あれはウーリンだったわ！
とぼけるな
この期に及んで——
あなたこそ——
……
ほう
おまえ…催眠術にかかっているね

!?
どれ
見せて
もらおうか
!?
それも
かなり強い
記憶の消去と
記憶操作の一種…
でも
完璧とは
いえないわ
そこまでに
しておけ
――ふうん
ほほ
これなら
壊そうと
するのも
道理よ…

女
出て来たとき
おかしなものと
一緒だったな
モゾ
モゾ
…
殺気が
似ている
おまえ
Dの手のもの
だな？
いかにも
手のものじゃ
ならば
伝えろ
この女は
預かる
返して
欲しければ——
おれは
ここだ


おお…


貴族の館

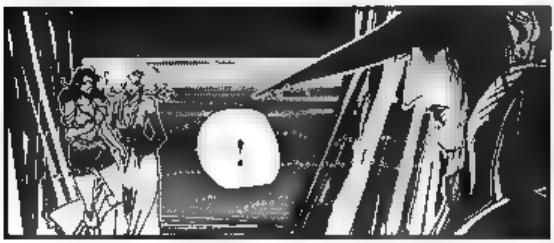


真かぬか？
――これも
おまえに
勝つために
選んだ道だ
珠はない

そんなものは
どうでもいい
娘を離せ
おれとおまえの
決着がついたら
すぐに
安心しろ
指一本
触れておらんし
この後も
何も起こらん
——おれは
おまえと決着を
つけたかった
だけだ
きれいな
月だな
こんなときに
戦わねば
ならんとは…

だが
おれ自身の
血が待てん
貴族の支配を
受けても
これだけは
変わらん
おれの血がな
——おまえも
いまのおれを
生かしては
おけまい？

立ち合うのは
ひとりか？


！

ふたり
だとも！
おれ
ひとりだ
そうは
いかん
おまえなら
そう言うだろうと
思ったぞ
フッ
もしも
そうなったら
女は見逃して
やってくれ
おまえが
万が一にも
生きて戻れる
気遣いは無いが

これは…
油断するな！
前とは別人の
ようじゃ！

！
——D!?
よくごらん
あいつは死んだ
あの男が殺したのよ

おまえも後を追わせてやろう
いいや
これから私の見せるものを知れば自分から死なずにはいられまい

…どうやらおれが勝ったらしいな

恐ろしい奴…
サモン——その娘殺してやれ

心臓は免れたが…
傷が

乃愛はおよし
よせ
この女に
命を捧わせ
なければ
私の愛が満たん
これは
この男は
誰？
!?

私に与えられた
新しい血の力
――別のものも
見せてやろう
ほれ
……
こりゃ
ふがんと…
遅かったな
スーイン

四年前・夏…
彼は村へやって来た
"戦士(ファイター)"だった
海盗団の襲撃を防ぐ為に呼ばれた一人…
…私は彼と…
…私は
やめて
やめて…
はぁはぁ
はぁはぁ

破ったな

やはり
円形物が
よろしい

はあ
はあ
はあ

エグベルト
再会だな
――そいつをハンターを殺せ！
だがこれが最後だ
まともな戦いをしたかったが…
もう少し骨のある奴だと思っておったぞ
――何処の国の王様じゃ？
"対"の真剣勝負の意味もわからんとは
笑うがいい
だがおれはその女に惚れた
――その女が守るものを守ってやりたいのだ

グレンだけは
撃つな
奴だ
ハンター
だけを撃て
わかって
おる

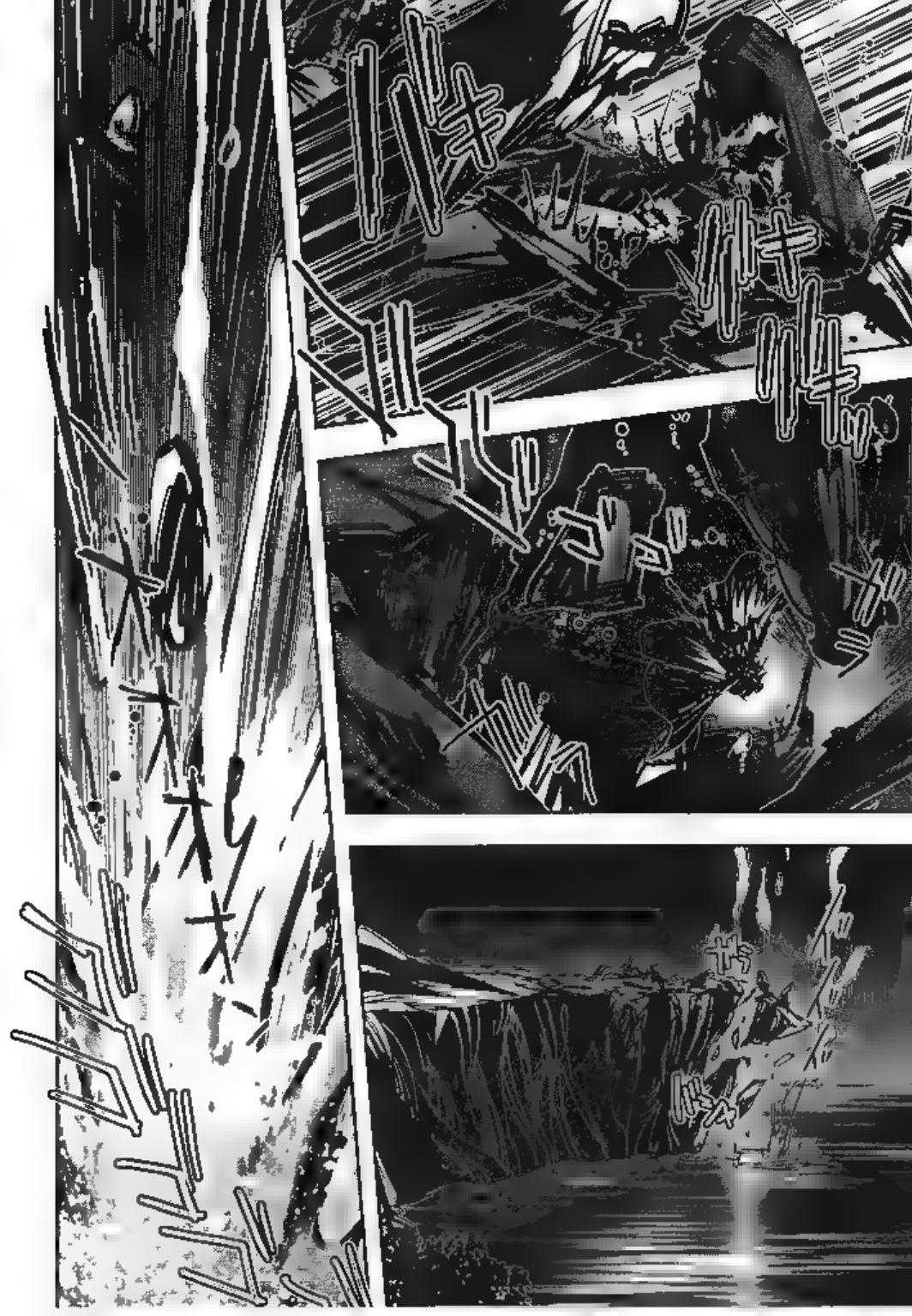
嘶

ズオ!
早く連れて逃げろ
奇妙なものだな

英雄気取りでしているのではないぞ
まことに素直な気分だ
Dよ——これが貴族の精神か？
……
報酬ちの非はおれの身体で償う
——勝てぬとはわかっているが
Dいくぞ
きえええ——っ

よく…
わかった
死こそ
……安らぎか

ぎゃっ
うう…

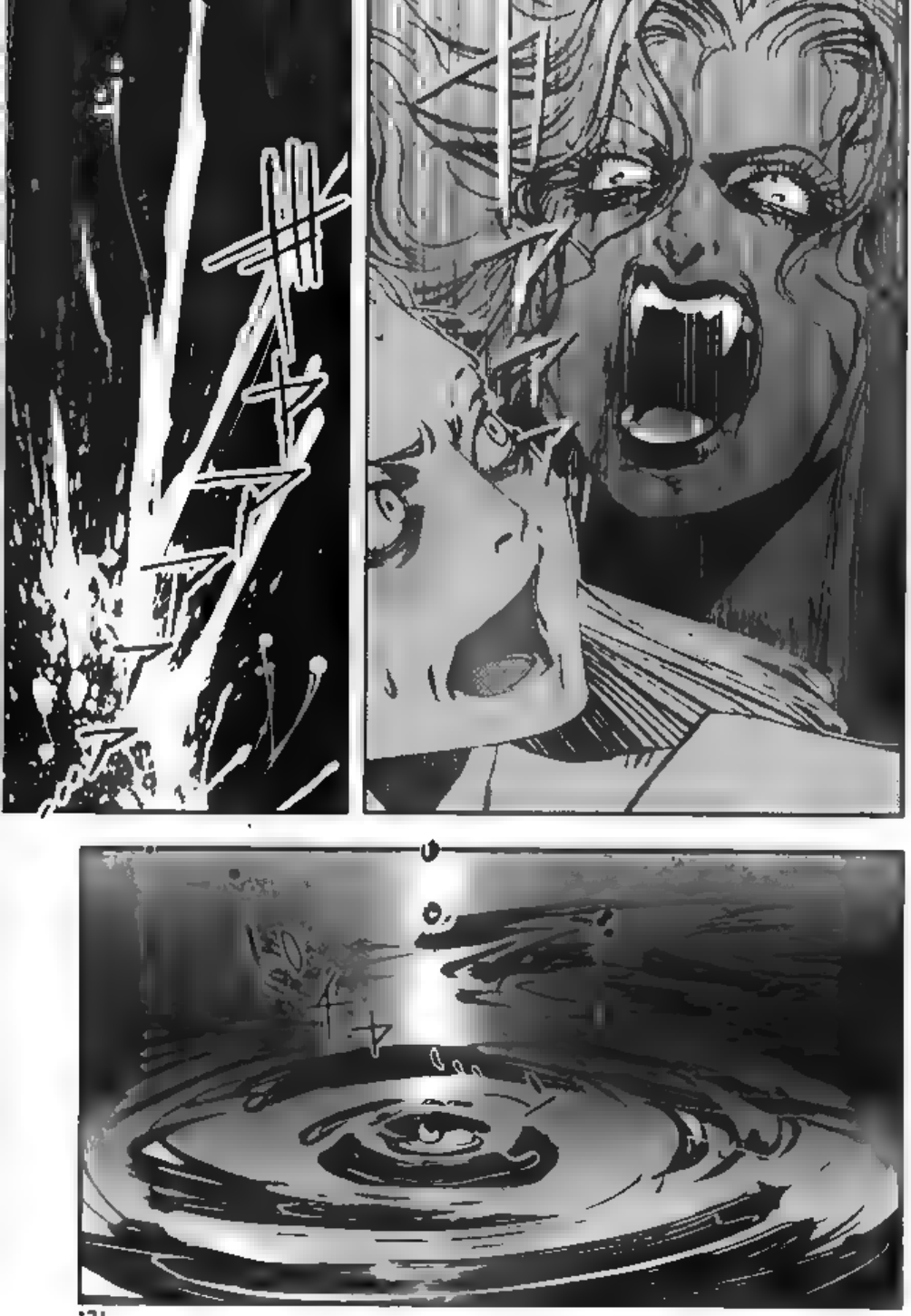


オラ
地震？
……

ねえ
ドワイト
あんた
いつスーインに
プロポーズ
するんだい？
うう…
うるせえ
ザアア…

まずい、血を失いすぎた
このままでは…
…
まったくどうなってやがる？

赤はいったい
誰が持ってるんだ？
あの娘の家に
しのばせてある
相棒とも
連絡がつかねえ…
しまった
いない!?
…殺られたか…
いいところへ
来てくれた



えらい目にあった
また随分落っこちたものだの
…ここはマインスターの穴か？
あの郷の地下まで続いておったのか
…で…
ギリガンのメカか
手足をもぎ取られておるぞ
こりゃ凄い

……Dか？
やられた
…おまえのときは何とか保ったが…今度はよろしくない
ギリガン
相手は誰だ？
クロロック…教授よ
…あやつ…貴族の力を身につけておった…ぞ
さっき……地面が揺れただろう？
…恐ろしい…力だ…
あの珠か？
そうだ…
ここで実験を…おれのやりたいことだったが…
あの珠は何だ？
知らないのか？
…はは…最大の強敵が……それも知らないとはね……

あれには…

人間と貴族の遺伝子の謎が…つまってる

人間の身体を使って…

水中でも…

…日中でも生きられる貴族を創る実験だ

あの球は

体内の老廃物を一切排泄…

分析…

おかしい…

一度…

人間の精神が強靭だと…

いいに抵抗して…

いいに…

教えろ…

……
ここを襲撃したのは……教授だ…
早く行け……奴は飢えてる…血を求めて…
村へ行ったはずだ……
だが…気をつけろ…奴め…
おまえより……強い…ぞ…
ガル
ガル…!
…それに…
……狂って…
…る……
いかんな
一瞬も早く――奴が村へ戻る前に見つけねば

あの
ハンターは
死んだか？
いいや
あの程度の事で
傷一つ負うような
男ではあるまい
奴とは
必ず出会う

グレンの傷は
まだ癒えぬ

エグベルトの
代わりは
手に入った

念のため
この女も
利用出来るよう
しておいてやろう

……
よせ……
ならん
……
その女に
触れるな
この期に
及んで
ほほ…まだ
左様な
ことを……
あの男との約束
……おれは
忘れてはおらん
よせ…
…今度は
勝てる自信が
あるのか？

――っ
いいのか
それを信じても？
それが済んだら…
南の方へでも行くか
済んだら？
……
それもよかろう

！
・クロロフク
教授？
シンに聞いた
話より…若い
すると

……ゆ
何の用だ
ここにはないぞ
そう見えるかな
神はわしの中にある
もう
みんなのに
神はない
たから
――神が
滅ったぞ
わしは
望みを
叶えた

その女を
連れて行け
グレン!?
早く行け
おれも
すぐに行く
行け!
刃を向ける相手は
わしではない
おまえだ
それで
喉を突け

やめてクレンー
――そいつの言う事をきいてはいけない！
KA
……っ
ツ――!!
…ロ…ローレライ…

ヒュー
ザン!
今では死なぬな
胸を刺せ
やめろ!

……
グレン？
グレン！
見ての通りだ
嘘よ
嘘よ

貴族のおすそわけを受けた者の力など所詮はこの程度のものよ
おまえは殺さん
卑しがる女の血は熱い
……
それを吸うのも新しい貴族の愉しみだ
光栄に思え

スーインは中か？
そうだがおまえは中までは行けんよ
おまえはここで死なねばならん
もうひとりの男と争しく
4m

…
ズズズ
ヒヒヒ!!
クク…
どうやって死にたい？
さっきの男のように喉を突いてから心臓をえぐるか？
いいやおまえにはもっと苦しい死に方を与えてくれる
その刀を首にあてい
ゆっくりとこすり切るのだ
骨に当たっても止めてはならんぞ
自分で自分の首を切り落とすまでつづけるのだ
なんと美しい眺じゃ…
美しい
わしの制魂をこめた傑作…

――切れ
落ちた首は
塩に漬けて
永劫にわしのもとに
保■してくれる
ああ…
なんと
芳しい
血の香りよ…
…ん？

ズリ…ズリ…

？
何故
我が術に…？

下手な絵じゃの
そうか
…出直すか
——やはり美しすぎたかおまえは
おまえに明日はない
!?
血が…
…おお…

こんな…
こんな
はずはない…
わしは
貴族の秘密を
…新しい人類を…
失敗
じゃったな

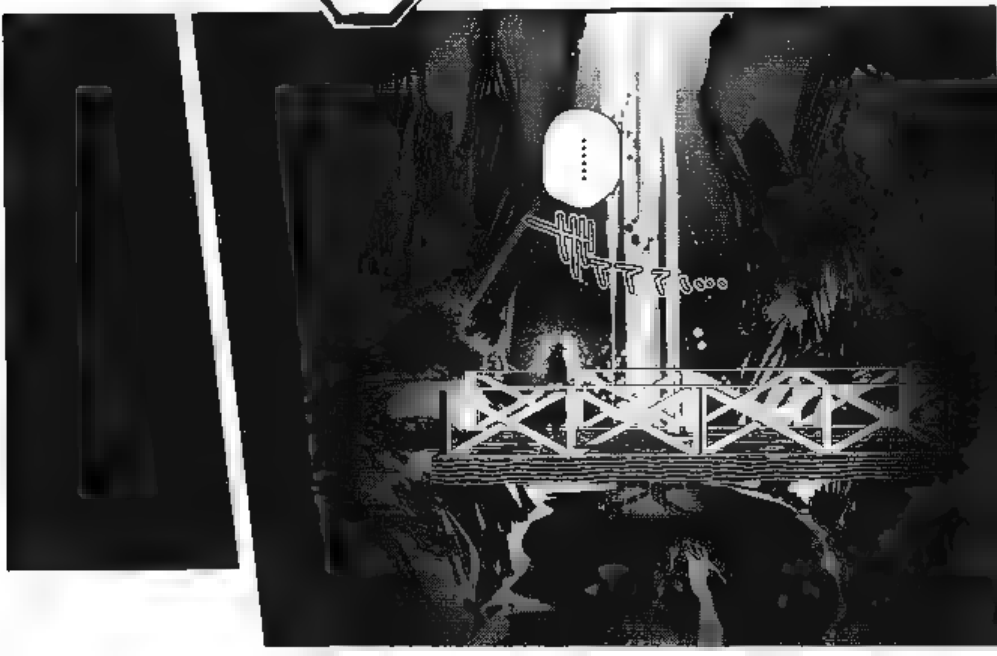
成功例は
ひとつだけじゃ
誰も
おらんぞ
逃げられ
たな

こりゃ
あいつの
体液か
厄介な
ものを——
待って
おれ
スーインは
戻かった
このゼリー
気味は悪いが
味はいい
少し量に
ためて
おくか——
…安心
する
グレンの
最後に残して
は帰りません
明日の朝
1100時に
スーインの家の前の
海岸へ来い

……

…それまで
余計な話をしたり
しなかったり…
あの
女の声か
女は
魚の餌だ

……待つしか
あるまいな


……

スーインのことは
ヨチヨチ歩きの
頃から知っておる

昔から
活発な娘
じゃったよ…

旅館が改装中
だったので
ほんの二日

その二日の間に
なにがあったのか

二人は
男と女の関係に
なっておった

我々は——
と スーインの祖父は——
見て見ぬふりを
することに決めた
村への納税にもなると
考えたからじゃ
ここでは
大きな人材だ
スーインへの納税は
スーインは
わしのもとへ
やって来た
冬の最後の晩
残念ながら
そういう女を
許せるほど
この村の
大きく
スーインはおろか
家族も
暮らしては
いけなくなるだろう
戦闘上が
村役場の金を
緒に逃げよう
申しでた
祖父と妹を抱えた
あの娘に承知
戦闘しも
締めなかった
二人の関係を
村中に知らせると
脅かしたのだ
家族は
捨てられぬ
男は
村の金を奪った
共犯になれという

そして

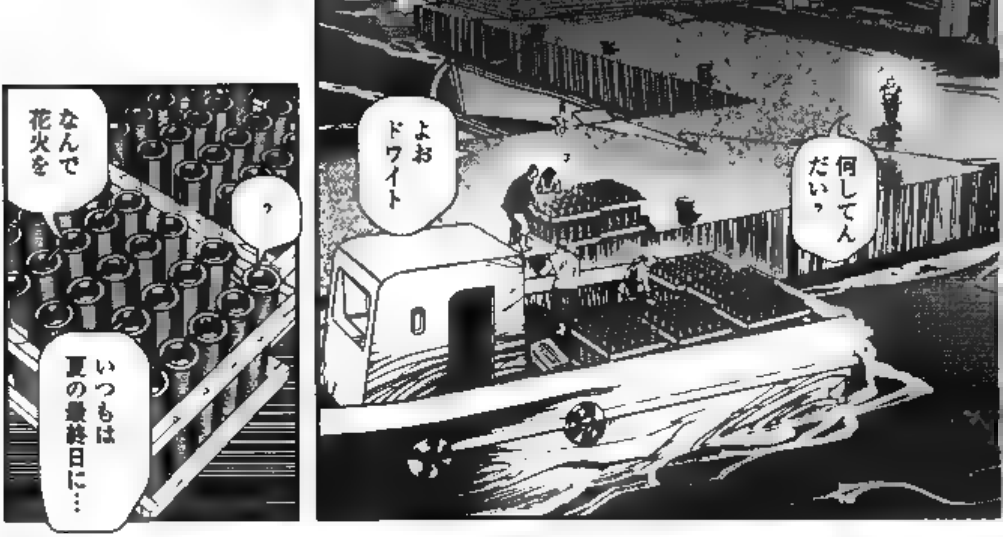
スーインの祖父は
催眠術で
その時の記憶を
封印したのだが……

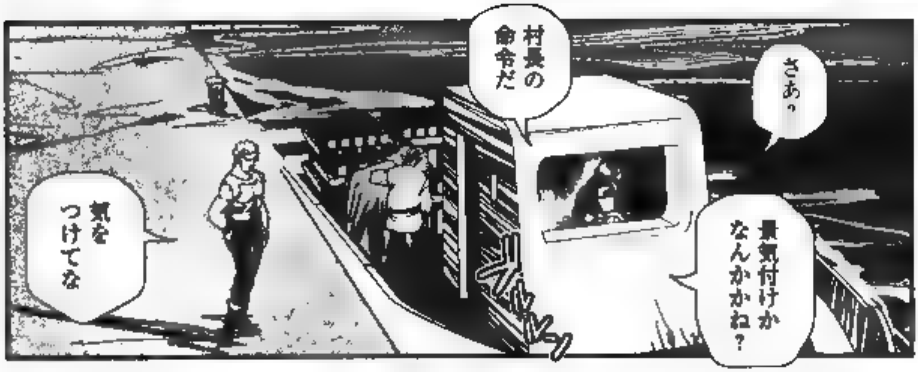
なあ

海から来る
貴族——

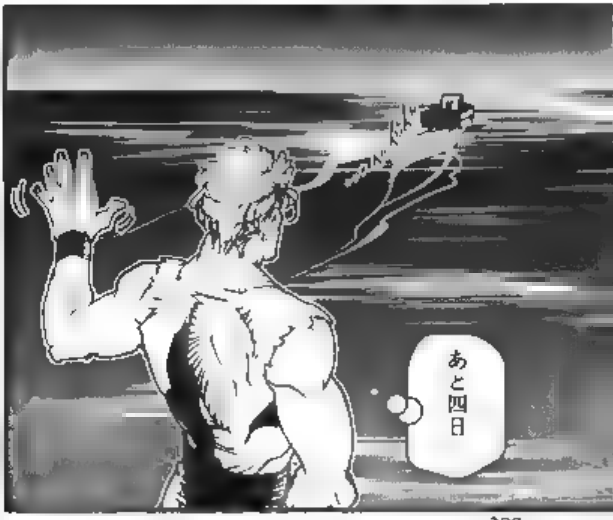
わしらは
マインスター男爵と
呼び慣らわしておるが
本当にそうなのか？

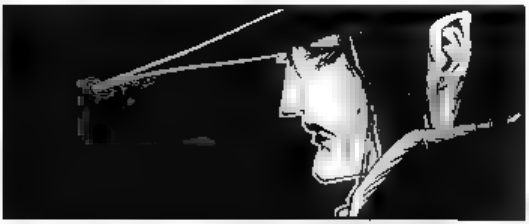
あれは
——叔父なのか？


何してんだい？
よおドワイト
なんで花火を
？
いつもは夏の最終日に…


さあ？
村長の命令だ
景気付けかなんかかね？
気をつけてな

いや
…今年の夏はもう終わりのような気がする…

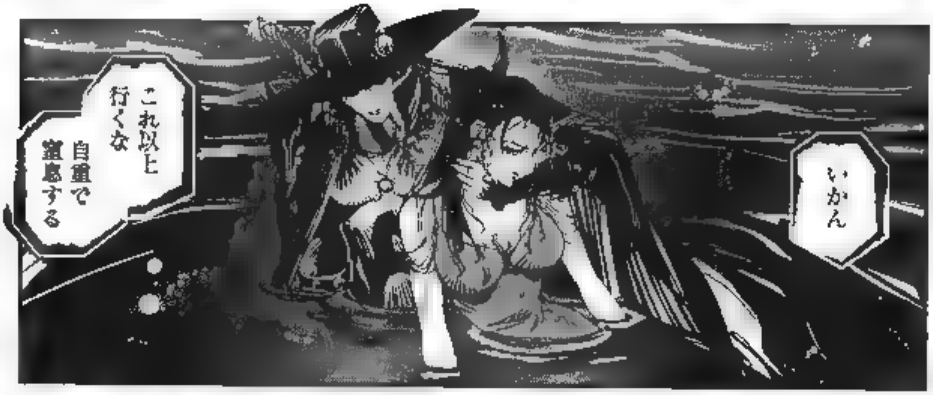

あと四日



よく来たな ハンター
スーインは ここだ
……
約束通り おかしな目には 遭わせてはおらぬ
だがそれは グレンの した約束
おまえにこの女を 返すまでの約束だ
約束は ご破算だ
いま この場で 返してくれる
さあ 返してくれる
取りに来い
二人の敵よ

ハンターが
死ねば
グレンの弔い
あの貴族が
滅びれば
この女に
正気は戻らん
はは
みんな
苦しめ！
あの男の
いない世界など
すべて
崩れて
しまえ！

喋すなよ
出血が止まらん
早く陸へ


いかん
これ以上行くな
自重で窒息する

その娘も
一貫って
いくぞ

覚えて
いるか
――
この娘を？
わからん
私には
わからんのだ
――その娘が
誰なのか？
何の為に
私は毎夏
その娘を求めて
ここへやって
来るのか…
それで
いい
そのまま
運命に従え

木の幹

その槍を
抱えて
いてはな
恐ろしい男だが
水の中では私に
一日の長がある
理由は
判らぬが
その槍
一貫って
行くぞ
その槍一貫って行くぞ
その槍を抱えていてはな
恐ろしい男だが水の中では私に一日の長がある
理由は判らぬが

さらばだ
ハンター
次の翼は
もはやない

やめて
―あなた!
ヒュ…

ドシュ
ゴアアア

あの時の結晶が役に立ったわい
眠らせたまま運べ
あの男――娘の声がきこえたのか？
……
……スーイン……

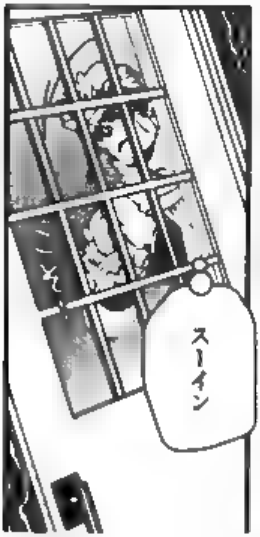
ニヤ

天候制御装置（ウェザーコントローラー）にガタが来よったか

今年の夏はもうおしまいじゃの
次の夏があるかどうか

誰も
来ない…

そう
よね
みんな
私が殺人者だと
知ってる


スーイン

なぜ
私はここに
いるんだろう
私には
何も残って
いないの
これから
どうしよう

ちくしょう
あの野郎…
こんなところに
スーインを
連れてけって…
許さねえ
探し出して
とっちめて
くれ……
!
!?
誰の声…?

先生！
先生！
先生！
先生!!

さあ
授業を
始めます！
はーーーい！
誰だ？
鐘を鳴らしたのは？
まさか…
ガタッ
ガタッ
！
あんたは？

はじめまして
トトと申します
クローネンベルグの街でウーリンさんに会いましてね

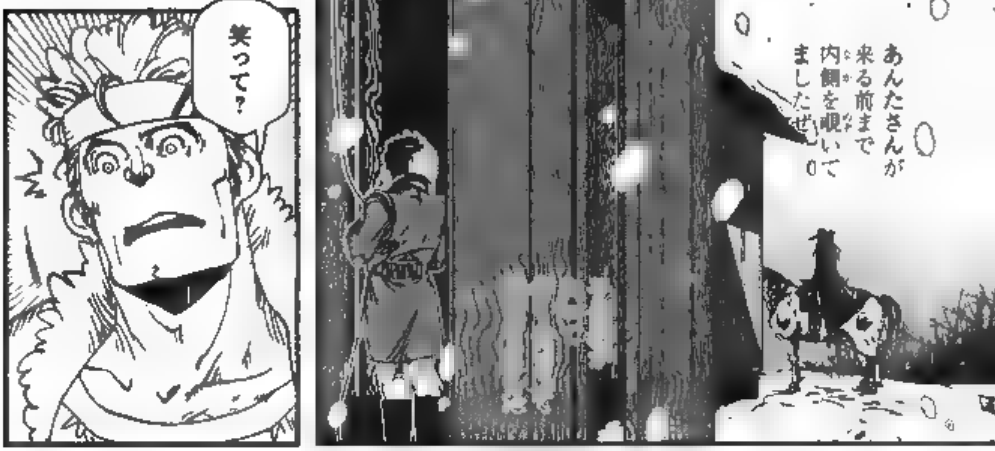
学校の授業を手伝ってくれと
——はいこれが依頼の手紙です

助かったよ
百万の味方だ

教師の経験はもちろんその他なんでも

ああ…行ってしまいましたね
どうしたい？
ええさっきまでそこに…

さっきあっしがどうやって声を掛けようかと入り口をうろついてたら鐘を鳴らせと教えてくれたんです
くらいいい男


笑って？
あんたさんが来る前まで内側を覗いてましたぜ。

あんないい笑顔にゃもう二度とお目にかかれんでしょう

そうかい

雪が浮かべさせたのか
——嬉しいねえ
一生の彫りになりますぜ

ぶっちまうんだなやっぱり
ひとりぼっちで
きょうで

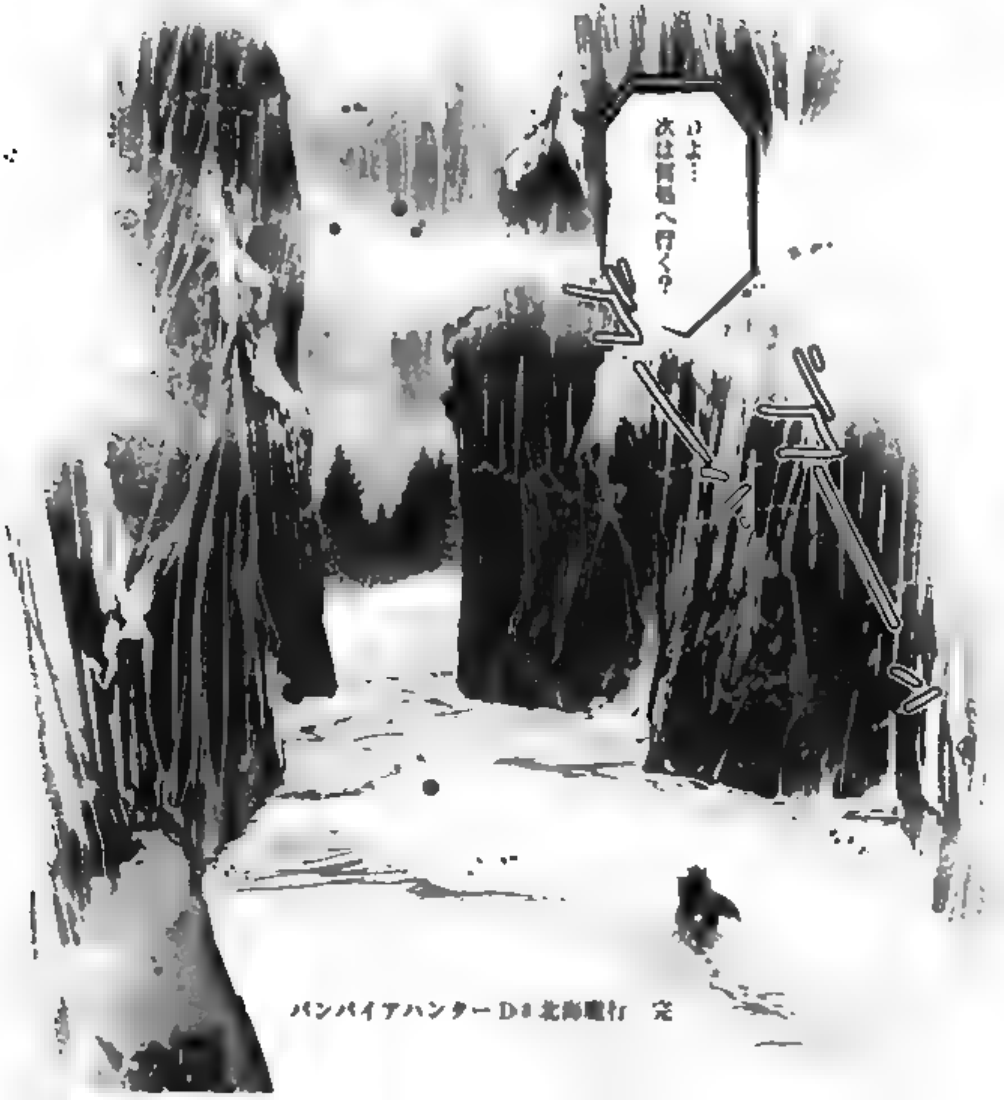
…ハンター
やっと
会えたな
まずは
おまえを
それから
村へ戻って
あの娘を始末
してくれる
残るのは
おまえと
あの娘
愚かおし
愛しいものと
ともに
死ぬがいい
出よ

お前に
D

お死に
そうやって…

!?
まさか…

まるで
神の
悪い者は
人間しか狩れた
それすら
平気で
狩り続ける
とは――
人間だ
くくく
悪の悪い者



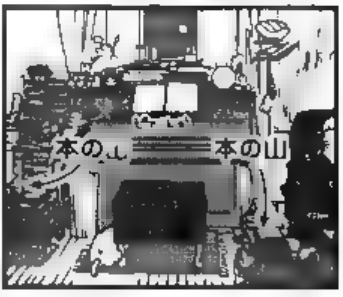
バンパイアハンターD8 北海魔行　完

おとめ山 8

菊地先生のお宅!!編

— 某月某日

都内某所 —



居間兼仕事場
こっち来て座んなー
妻帰
本の山
本の山
本の山

ビデオコレクション!!

細いやつの本!!
床がたわんで来てるらしい…

元書斎
壁面本棚
うわあ
ビデオデッキ
テレビ
ゴチャー
本の山に埋もれる机(見えない)
今はこの部屋使ってないんだけどね
トークライブ用のビデオの編集はこの部屋でするそうです。

あれ?今度トークライブでやるビデオ
どこいった?あれっ?

どこに何があるかわかるんですか?
んー
まあだいたいねー
DVDの山
本の山

こ――――んな不思議体勢でDとか書いてるし!!
最近は腰の調子は良いよ
万年筆で手書き
ある程度まとめてFAXで送信
普段の執筆中の感じを再現してもらいました
何かビデオかけることが多い
テレビ
ライト
※さっきの居間です
こりゃ～ん
床にマットを敷いて
胸の下に二つ折り座布団
Dのコトとか映画の話、日常のコト等、いっぱいお話させていただきました
日割がた雑談!
Dの○○の○○のコト覚えてます?
そんなこと書いたっけ?
Dの左手って○○なんですか?
そのうち書くよー
Dに出てくる犠牲者は…
あー、アレはねー…
Dのラストを教えてください
考えてあるけど教えなーい
Dの○○って○○なんですか?
それは違うー
毎度のコトですが…
特にオチはないです
性の字は「ものすごい」ことで有名!!
英語はコレ読めるんですか?
んーア
まあ、だいたいねー
前後の脈絡なし!
というワケで…
この巻でこのシリーズは一旦終わりとなります。
マンガ版パンパイアハンターDを今まで応援してくださった読者の皆さん、ありがとうございました。
菊地先生、奥様ありがとうございました。
楽しかったです。また伺ってもいいですか?

COMIC 月刊コミックフラッパー
FLAPPER

MFコミックス
バンパイアハンターD　8　北海魔行　下巻

発　行　2014年9月30日　初版第一刷発行

著　者　鷹木 骰子
原　作　菊地 秀行
発行者　三坂 泰二
編集長　池上 昌平
発行所　株式会社KADOKAWA
〒102－8177　東京都千代田区富士見2－13－3
03－3238－8521（営業）
編　集　メディアファクトリー
0570－002－001（カスタマーサポートセンター）
年末年始を除く平日10:00～18:00まで
印刷・製本　大日本印刷株式会社

ISBN 978－4－04－066853－6　C9979
© Hideyuki Kikuchi, Saiko Takaki 2014　Printed in Japan

http://www.kadokawa.co.jp/
http://www.comic-flapper.com/

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内の利用であっても一切認められておりません。
※定価はカバーに表示してあります。
※乱丁本・落丁本は送料小社負担にてお取替えいたします。カスタマーサポートセンターまでご連絡ください。古書店で購入したものについては、お取替えできません。

コミックスのアンケートはこちらでアクセス！
お答えいただいた方全員に、コミックスで使用している画像の無料待ち受けプレゼント！
※サイトにアクセスする際や、登録・メール送信等にかかる通信費はご負担ください。
※アンケートにご回答いただいた内容を第三者に開示することはありません。
※一部機種では対応しておりませんのでご了承ください。
http://mfe.jp/kxa/